平成25年 一級建築士設計製図 実践課題 第2回 問題用紙

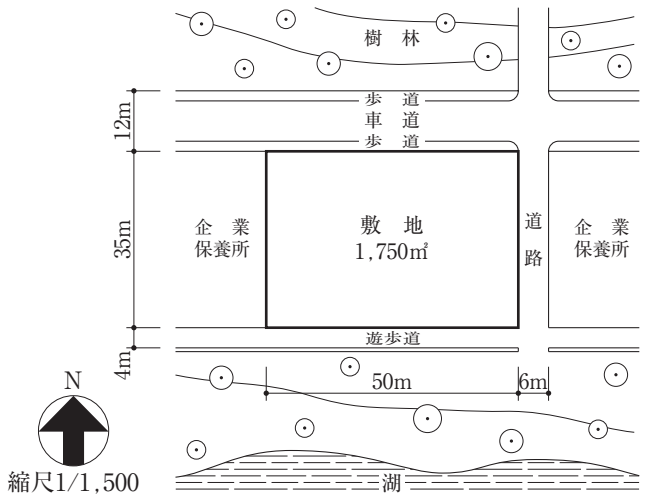
設 計 課 題　大学のセミナーハウス

Ⅰ. 設 計 条 件

この課題は、湖畔の景勝地において、美術大学のセミナーハウスを計画するものである。本施設は、様々な世代の一般市民に対してもロビー・アトリエを絵画や彫刻等の芸術作品制作(以下「ワークショップ」という。)の場として提供し、創作活動や交流の場となるように計画する。

1. 敷地及び周辺条件

(1) 敷地の形状、接道条件、周辺状況等は、下図のとおりである。
(2) 敷地は、平坦で、道路、遊歩道との高低差はないものとする。また、歩道の切り開きは、1箇所当たり6mまでできるものとする。
(3) 敷地は、都市計画区域外であるが、景観保全のため建築物に関して次の制限がある。
　① 前面道路の境界線から外壁の後退距離は、5m以上とする。
　② 主要な屋根は、湖畔(南側)及び前面道路(北側)に下る勾配屋根とする。
　③ 建築物の高さの最高限度を10mとする。
(4) 電気、ガス及び上下水道は、完備している。
(5) 地盤は良好であり、杭打ちの必要はない。
(6) 地下水及び積雪についての特別の配慮はしなくてよい。



2. 建 築 物

(1) 構造、階数等
構造種別は自由とし、地上2階建ての1棟の建築物とする。
(2) 床面積の合計
床面積の合計は、1,600㎡以上、1,900㎡以下とする。
この課題の床面積の算定においては、ピロティ、塔屋、バルコニー、屋外階段等は、床面積に算入しないものとする。
(3) 要求室
下表の室は、すべて計画する。

部門	室名	特記事項	床面積
・エントランスを道路側に設け、遊歩道からもアプローチできるものとする。			
セミナー部門	アトリエ	・絵画、彫刻の創作に使用する。 ・一般に開放し、ワークショップを開催する。 ・天井高5.0m以上とする。 ・収納スペースを設ける。	約150㎡
	セミナー室A	・学生(30人程度)の合同セミナーや講演会などに使用する。 ・テーブル、いす等を設ける。	適宜
	セミナー室B	・学生(15人程度)のセミナーや工房などに使用する。 ・テーブル、いす等を設ける。	
	セミナー室C	・学生(8人程度)のセミナーや工房などに使用する。 ・テーブル、いす等を設ける。	
	ロビー	・学生及びワークショップ参加者が、休憩・談話等に利用できるスペースとする。	
	コピー室	・複写機等を備え、自由に使用できるようにする。	
宿泊部門	宿泊室	・洋室(4人部屋)を4室(1室当たり約30㎡)、和室(6人部屋)4室(1室当たり12畳、その他に踏込、押入れ)を設ける。	適宜
	教員宿泊室	・洋室(1人部屋)を2室設ける。 ・バス・トイレ・洗面ユニット付きとする。	計約 30㎡
	ラウンジ(1)	・自動販売機を設置する。 ・湖の景観を楽しめるようにする。	約 30㎡
	洗面所	・男性用、女性用として各1室設ける。	適宜
	洗濯室		
	リネン庫		
	浴室	・男性用、女性用として各1室設ける。 ・各浴室に脱衣室及び便所を設ける。 ・湖の景観を楽しめるようにする。	計約 80㎡
共用・管理部門	エントランスホール	・風除室を設ける。 ・吹抜(30㎡以上)を設ける。 ・展示コーナー(約30㎡)を設ける。	適宜
	食堂	・厨房を設ける ・テーブル、いす等を設ける。	約120㎡
	シャワー室	・湖水浴のためのシャワー設備を設ける。 ・男性用、女性用として各1室設ける。	適宜
	ラウンジ(2)	・自動販売機を設置する。 ・湖の景観を楽しめるようにする。	約 30㎡
	管理事務室	・受付カウンター及び応接コーナーを設ける。 ・事務員は通いとし、3人分の事務スペースを設ける。	適宜
	職員更衣・休憩室	・男性用、女性用として各1室設ける。	
	設備スペース	・採用した設備計画に応じて、設備機械室(空調、給排水、電気等)、屋外機置場等を計画する。	
・上記の室に関連して必要と思われる室等は、適宜計画するものとする。 ・その他必要と思われる室等は、適宜計画するものとする。			

3. その他の施設等

(1) 駐車場は、地上に平面駐車とし、施設利用者の送迎用(マイクロバス、1台当たり3.5m×7.5m)として1台分、車いす使用者用として1台分、サービス用として1台分を設ける。なお、施設利用者用及び職員用の駐車場は、敷地外に別途計画されているものとする。
(2) 駐輪場は、施設利用者用として20台分を設ける。
(3) 送迎用のマイクロバス等が利用する車寄せを設ける。
(4) ごみ置き場を設ける。
(5) (1)～(4)の「その他の施設等」は、床面積に算入しないものとする。

4. 計画に当たっての留意事項

(1) 建築計画については、次の点に留意して計画する。
　① 湖を望む景観を、眺望として積極的に取り込んだ計画とする。
　② セミナー部門、宿泊部門、共用・管理部門を適切にゾーニングし、明快な動線計画とするとともに、避難等に配慮する。
　③ バリアフリーに配慮する。
(2) 構造計画については、次の点に留意して計画する。
　① 建築物全体が、構造耐力上、安全であるように計画するとともに、経済性にも配慮する。
　② 構造種別、架構形式及びスパン割を適切に計画する。
　③ 耐震性に配慮し、必要に応じて耐力壁等を設ける。
　④ 部材の断面寸法を適切に計画する。
(3) 設備計画については、次の点に留意して計画する。
　① 空調設備、給排水衛生設備、電気設備、消火・防災設備等を適切に設け、環境負荷低減に配慮する。なお、給水設備は受水槽方式とする。
　② エレベーターを適切に設ける。
　③ 自然採光を積極的に取り入れる計画とするとともに、日射遮蔽にも配慮する。

Ⅱ. 要 求 図 書

答案用紙Ⅰ及び答案用紙Ⅱの定められた枠内(寸法線については枠外でもよい。)に、黒鉛筆を用いて記入する。

1. 要求図面(答案用紙Ⅰに記入)

下表により、所定の図面を作成し(フリーハンドでもよい。)、必要な事項を記入する。

図面及び縮尺	特記事項
(1) 1階平面図兼配置図 1/200 (2) 2階平面図 1/200	① 1階平面図兼配置図及び2階平面図には、次のものを図示又は記入する。 イ. 建築物の主要寸法(柱割り及び床面積の計算に必要な程度) ロ. 室名等 ハ. 採用した構造種別、架構形式及びスパン割に応じて必要となる構造要素(凡例の空欄に記入し、図示する。) ニ. 設備シャフト〔パイプシャフト(PS)、ダクトスペース(DS)、電気シャフト(EPS)〕の位置 ホ. 設備計画に応じた設備スペース(ただし、屋上に設けた場合は断面図に図示する。) ヘ. 断面図の切断位置 ト. アトリエ、セミナー室A, B, C、ロビー、ラウンジ(1)及び(2)、展示コーナー、食堂、浴室(男)、浴室(女)、管理事務室、設備機械室の床面積 ② 宿泊室及び教員宿泊室については、次のものを図示又は記入する。 イ. 各宿泊室のうち代表的な1室の室内プラン及び床面積 ロ. 各宿泊室の出入口 ハ. 各宿泊室の表示(洋室は洋室1～洋室4、和室は和室1～和室4、教員宿泊室は、教員宿泊室(1)及び(2)) ③ 1階平面図兼配置図には、次のものを図示又は記入する。 イ. 建築物の出入口 ロ. 駐車場(台数及び出入口を明示する。) ハ. 通路、植栽、ごみ置場等 ④ 2階平面図には、次のものを図示又は記入する。 イ. 居室の最も遠い位置から避難階段の一に至る歩行距離及び経路 ロ. 1階の屋根、ひさし等となる部分
(3) 断面図 1/200	① 切断位置は、アトリエを含み、建築物の全体の立体構成及び屋根形状(勾配屋根)がわかる断面(北－南)とする。なお、水平方向、鉛直方向の省略は行わないものとする。 ② 屋上に設備スペースを設けた場合は図示する。 ③ 塔屋を除く建築物の高さ、階高、天井高、1階床高及び主要な室名を記入する。 ④ 基礎、梁及びスラブの断面を図示する。
(4) 2階梁伏図 1/200	① 2階からの見下げ図とし、主要な柱、大梁、小梁及びスラブは構造部材表の符号を明示する。 ② 構造部材表に主要な柱、大梁、小梁及びスラブの断面寸法を記入し、主要な部材が複数となる場合は空欄に符号、部材及び断面寸法を追加記入する。なお、梁に鉄骨を使用した場合の断面寸法は、H－○×○のように記入する。

2. 面 積 表(答案用紙Ⅰに記入)

地上1、2階の床面積及びその合計を記入する。なお、各階の床面積については、その算定式も記入する。

3. 計画の要点等(答案用紙Ⅱに記入)

(1) 建築計画について、次の①～③の要点等を具体的に記述する。なお、要求図面では表せない部分についても記述する。
　① アトリエの計画について、その位置とした理由及び動線計画において工夫したこと
　② バリアフリーについて、工夫したこと
　③ セキュリティについて、工夫したこと
(2) 構造計画について、次の①及び②の要点等を具体的に記述する。なお、要求図面では表せない部分についても記述する。
　① 建築物に採用した構造種別、架構形式及びスパン割りとこれらを採用した理由
　② 勾配屋根の構造計画について、工夫したこと
(3) 設備計画について、次の①～③の要点等を具体的に記述する。なお、要求図面では表せない部分についても記述する。
　① アトリエ、セミナー室A、B、Cに採用した空調方式と採用した理由
　② 自然採光及び日射遮蔽について、工夫したこと
　③ 設備スペース及び設備シャフトの配置計画について、工夫したこと

会員番号	氏名	受験地

〈TAC〉無断複写・複製を禁じます。